

平成 26 年度 自己評価表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

| | | | |
|---------------------------|--|----------------------|---|
| 中長期目標 (学校ビジョン) | キャリア教育に重点を置き、地域の中で職業的に自立するとともに、主体的に活動、社会参加し、社会に貢献できる人を育成する。そのために、学校生活の基礎基本を確立し、主体的に活動しようとする意欲を育てる。 | 今年度の 重点目標 | ○基礎基本の確立と、意欲の涵養 ○社会人としての基礎力の育成 ○熱意と工夫を持った新しい学校の創造 |
|---------------------------|--|----------------------|---|

| | | 年 度 当 初 | | | |
|---------------|-----------------|--|---|--|--|
| 評価項目 | 評価の具体項目 | 現状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | |
| 基礎基本の確立・意欲の涵養 | 教務部 | ○年間指導計画の見直し修正及び次年度の年間計画の作成 ○学校祭の実施 | ○昨年度作成したものの修正及び次年度の計画について継続しての検証が必要 ○学校祭は初実施 | ○年間指導計画の修正及び来年度分の整備が完了している ○1, 2年生のみで学校祭の実施ができる | ・各担当教科で修正、検討を実施 ・生徒会を中心とした立案、計画 |
| | 学科部 | ○学校カフェの運営 ○地域との連携 ○生徒の作業スキルの向上 | ○学校カフェをオープンさせ、各コース間の連携を図ることが必要である。 ○地域との連携は実施できているが、もっと内容を充実させたい。 ○生徒の実習活動での明確な技術的目標があいまいである。 | ○学校カフェの運営が軌道に乗り、全コース間の連携ができている。 ○近隣企業(農家)との連携事業で、生徒の作業体験ができる。 ○校内技能検定を、学年およびコースごとに実施する。 | ・生徒の役割(業務)に対する意識付け。利用客からのアンケート実施。コース間ミーティングの密な実施。外部協力者への依頼。 ・生産農家と調整を図り、作業体験をさせる。予算を利用し、現状よりも遠距離企業で実習体験させる。 ・校内検定マニュアルを利用し、実施する。生徒の検定に対する意欲を高めるために級位を認定する。 |
| | 1 学年部 | ○あいさつの定着と進化 | ○あいさつはしているが相手に伝わらない(音量、視線など)生徒が多い。 | ○適切な音量で相手の顔を見ながら気持ちのいいあいさつができる生徒が増える。 | ・登校時のあいさつ活動で見本を示すとともにレベルアップの助言をする。(ステップアップ) ・自己評価表を作成し、定期的に振り返る機会を設定する。 |
| | | ○お互いを敬うことのできる集団づくり | ○言葉が乱雑なままで会話をしむ雰囲気がある。 ○自分の判断(思考)で動くより意志の強い人に流される傾向が強い。 | ○友達をあだ名等で呼ばず、「さん、くん」で呼び合う。 ○自分の意見を皆の前でも堂々と表現している。 | ・教師がアンテナを張り、よくない言動に対し、毅然と注意を促す。 ・学校生活全般で発表の場を設定するとともに、よい場面を捉えて褒めることにも努める。 |
| | 2 学年部 | ○いつでも誰でも自分から挨拶することができる生徒の育成 | ○昨年度末評価において、C。自分から挨拶をする生徒と、促されてから挨拶する生徒がいる。また、初めて会う人へのあいさつになると声が小さくなったり、自分からあいさつができなかったりすることが多い。 | ○90%以上の生徒が、いつでも誰でも自分から挨拶をすることができる。 | ・登下校の際に玄関に立ち、あいさつの励行を促す。 ・生徒会・代議員会と連携し、学級で挨拶チェックを行う。 |
| | | ○自分で考えて動くことができる生徒の育成 | ○友だちや教師に促されて動く、もしくは、全体の動きに合わせてなんとなく動く生徒が多い。時間を守って行動する意識の薄い生徒がいる。現場実習の際には、どう動いたらよいかわからなかったり、自分から質問できなかったりする受身の生徒が多かった。 | ○ホワイトボードに書かれた指示(手順)や連絡を見たり、メモをとったりしながら、自ら考えて動くことができる。 ○わからないことや困ったことがあった際には、自分から質問することができる。 | ・指示(手順)や連絡をわかりやすく書いて伝える。 ・時間内に自分で考えて動くことを遂行できたことへの評価。 ・メモの活用促進。 ・生徒が困った時には、自分から質問できるように事前に援助要求の方法を指導しておく。 |
| 社会人基礎力の育成 | 指導部 | ○生徒指導体制の確立 | ○家庭環境や生育歴に起因する二次障害などにより、自己肯定感が十分育っていない生徒も見られるが、入学や進級を契機に自分を変えようと考えている生徒が多く、規範意識を育みつつある。 | ○基本的生活習慣(挨拶、服装、時間を守る、良い言葉遣い)の定着。 ○規律あるいじめのない集団作り(いじめ発生率0)ができている。 | ・生徒指導体制及び生徒心得の職員間の共通理解と一貫した指導の実践 ・Hyper-QUなどのいじめ、学校生活に関するアンケート調査の実施と分析 |
| | 保健部 | ○心身ともに健康で安全な生活ができる生徒の育成 | ○衛生習慣が確立してない生徒、肥満指導が必要な生徒が多い。 ○新入生の不登校経験生徒有。 | ○長期欠席者をださない。 ○衛生習慣、食習慣に対する意識づけを行う。 | ・SC、外部機関、支援部、担任との連携を図る。 ・健康観察の充実、日常生活や給食時の手洗いの励行、体重指導を行う。 |
| | 寮務部 | ・寄宿舎マイスター制度の活用 | ・4/15に2年生は、オレンジマイスター認定式を行った。1年生は研修生からスタートした。 | ・寄宿舎マイスター制度を確立し、舎生が共同生活の決まりを守ることができている。 | ・すべてのマイスターを明確に示すと同時に日々の点検活動と指導を徹底する。 |
| 新しい学校の創造 | 進路部 | ○進路先企業の拡大 | ○実習受入企業は昨年度100社以上確保できたものの、雇用を考えた企業は少ない。 ○今年度、本校に就労サポーターが配置され、他校との連携が昨年度以上に必要である。 | ○2月の2年生の実習で雇用を考えた企業での実習が1/3以上確保されている。 | ・進路担当者情報共有会を定期的実施し、就労サポーター・進路担当との連携を強化する。 ・職場開拓用パンフレット・映像の作成、タブレットの活用 |
| | | ○キャリア教育の推進 | ○生徒は、3年生、卒業生がおらず、卒業後の見通しが持ちにくい。 ○キャリア教育の全体計画はあるものの、教員の理解が不十分。 | ○計画的にキャリア教育に関わる行事が行われる。 ○教員がキャリア教育の全体計画についてイメージを持っている。 | ・連続ミニセミナー、15歳のハローワークの実施。 ・キャリア教育推進委員会の計画的な開催 ・キャリア教育に係る研修会の実施等情報提供の機会を持つ。 |
| | | ○現場実習のスムーズな運営 | ○全職員共通理解の下、進める必要があるが、転入職員も多く、かつ、文書も多いため、共通理解に時間をかける必要がある。 | ○現場実習において、今やるべきことが理解され、スムーズな運営が行われている。 | ・現場実習カレンダーの作成 ・現場実習のてびきの作成 ・掲示の工夫 |
| | 支援部 | ○入学者選抜に関する取組の充実 ○校内支援体制の確立 | ○中学校等で進路指導を進めるにあたり、十分な情報提供ができていない。 ○校内の生徒に対しての支援を組織的に行うための仕組みが必要である。 | ○入学者選抜に出願を検討している生徒の担任や保護者が1回以上研修会に参加している。 ○生徒の情報や支援策が職員で共通理解できている。 | ・学校説明会、体験入学、志願者対象相談会等の機会を利用し、中学校等の進路指導で役立ててもらうための研修会を行う。 ・生徒情報の会を週1回開催し、生徒の情報交換や支援策の検討を行う。 |
| 総務部 | ○保護者や地域に信頼される学校 | ○前年度、全家庭が1~5回以上の授業参観に来校。PTAが組織化され、3割の保護者が役員等として積極的な参加の意思表示。 ○地域への情報発信や連携事業を行うことで地域住民への理解が拡がりつつある。 | ○保護者の来校回数、PTA活動、保護者研修への参加率を前年度並みに維持する。 ○地域交流事業が積極的に実施され、地域への啓発が進んでいる。 | ・参観日や授業公開、PTA活動の実施方法の工夫。 ・学科学習、学校祭等における地域交流事業の推進。 ・学校ホームページ、学校だよりなど広報活動の工夫、活用。 | |

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し [40%程度] [30%以下]